

【高校生の部】 作文部門 未来賞

「割り箸と塗り箸、どちらが良いか」

大阪府立箕面高等学校 2年 ^{くすのき ひなた} 楠 日向

「割り箸と塗り箸、どちらが良いか。」

こう問われたとき一瞬、質問の意味がわからなかった。すぐに捨ててしまう割り箸と繰り返し使える塗り箸。どちらが良いかなんて一目瞭然ではないか。質問者は続けて言う。確かに一度で捨ててしまう割り箸はもったいないと感じるだろう。しかし、あなたは塗り箸を洗うときのことを考えたことはあるか。洗剤がどれだけ水を汚すか。考えたことはあるか、と。私の中で一つの当たり前が崩れた瞬間だった。私はそれまでなんの疑問も抱かず、幼い頃から塗り箸を使ってきた。当たり前に見えて実はそうでないことは多い。

例えば、地球温暖化対策として木を守るのに大切なのは木を切らないことだと私は思っていた。しかし、本当に必要なのは逆に切ることだった。植物は光合成により二酸化炭素を吸収して、酸素を排出するが、その量は様ではない。若木はたくさんの二酸化炭素を吸収するが、老木になると吸収する二酸化炭素よりも、呼吸によって排出する二酸化炭素のほうが多くなるのだ。だから本当に大切なのは、木の状態を見極め、適度に間伐を行い、その木をきちんと使うことなのだ。国産の割り箸には建材としては弱く、捨てられてしまう間伐材を使って作られるものが多いため、環境に良いという意見もあるのだ。

割り箸の例でわかるように、気候変動問題について考えるのにおいて、時には自分の当たり前を疑うことが必要だ。疑うことの重要性を示す例として、パーム油を挙げたいと思う。パーム油は食用油、洗剤、化粧品などに使われる植物性油だ。食品の原材料表示では「植物油脂」と書かれることも多い。とあるCMでパーム油は健康に良く、貧しい人の生活が豊かになり、環境や地球温暖化にも良いと歌われた。それだけ見るとパーム油は万能で素晴らしい製品のように感じる。しかし、その生産方法によっては、パーム油は悪者となる。例えば、パーム油の原料となるアブラヤシを育てるためにジャングルを切り開く。それによって、動物の住処が失われる、農薬によって水に化学薬品が混ざり、現地の人が水源を失うなど、利益だけを考えて生産されたパーム油は決して万能とは言えない。もちろん環境に配慮して生産している企業もあるが、そうでない安価なものが売れているのも現状だ。そこで私たち消費者に出来ることは、疑い、調べ、選ぶことだとおもう。宣伝されているメリットの裏に重大なデメリットはないか、疑う。値段に環境が蔑ろにされていないか、どのような配慮のもとに作られているのか調べる。そして、自分の本当に使いたい物を選ぶ。それによって守れる森林があるのではないかと思う。

「グリーン・コンシューマー」という言葉はあまり馴染みのない言葉かもしれない。私も高校の授業で初めて聞いた。緑の消費者と訳せるこのグリーン・コンシューマーは、環境に配慮し、より環境に優しい買い物をする消費者を指す。グリーン・コンシューマー10原則の中に、環境問題に熱心に

取り組み、環境情報を公開しているメーカーや店を選ぶ、というものがある。サラヤという企業はパーム油を使ったヤシノミ洗剤が人気商品だ。石油系洗剤による川の汚染が問題視された頃に誕生したヤシノミ洗剤は、植物由来で手肌に優しい上、微生物によって分解されやすく、人にも地球にも優しい洗剤として、官公庁や学校などで幅広く用いられる。そんなサラヤの環境への真剣な眼差しは排水だけでなく、原料の段階にまでも向けられた。先程紹介したように、パーム油の生産による環境破壊が問題となっている。そこでサラヤは原料の循環サイクルにまで目を向け、原料生産地の熱帯雨林を守る活動を始めた。また、RSPO(持続可能なパーム油のための円卓会議)に日本に籍を置く企業として初めて参加し、環境保全に貢献している。パーム油のように、それ自体は環境に優しくても生産の方法次第で森林破壊につながる事例もある。それを理解し、きちんと向き合う企業があるということを知ること、私たちはより環境に優しい買い物をすることができるのではないだろうか。

消費の面でもう一つ取り上げたいのが、ファストファッションについてだ。ファストファッションとは、最新の流行を取り入れながら、低価におさえた衣料品を、短いサイクルで世界的に大量生産・販売する業態のことだ。今、私たちの周りには安価で気軽に買える衣料品が溢れている。それは大変便利だが、安いということが物を大切にすることを薄れさせているように感じる。昔は破れたところを繕って、服を長持ちさせていたのに、最近は安いからまた買えばいいと、すぐに服を捨ててしまう人を度々見かける。衣服を製造する過程では、二酸化炭素が多く排出され、海外で製造した製品を私たちのもとに運ぶのにも、たくさんの燃料が使われている。大量生産・大量販売のファストファッションは環境への負担も大きく、地球温暖化などの環境問題をもたらす。安価な衣類の洗濯や、生地による水質汚染も問題となっている。何より、そうやって負担をかけて作られた衣服が大量に廃棄されている。物を捨てるということは、それを作るのにかけられた労力を捨ててしまうということだ。私たち消費者は今一度、普段の買い物を見つめ直す必要がある。値段に惑わされず、長く使える、環境に配慮されたものを選ぶことが、グリーン・コンシューマー10原則の一項目であり、地球を守る一歩になる。

地球温暖化などの気候変動問題を解決するためには、私たち一人一人の意識や当たり前を変える必要がある。多くの人にとって身近な消費という活動は、環境問題に向き合える絶好のチャンスではないだろうか。

「割り箸と塗り箸、どちらが良いか」

私は塗り箸を選ぶ。端材を無駄にしない割り箸は魅力的だが、私は毎日触れるこの箸を、環境に配慮された洗剤を使って、自らの手で洗いたい。そして、繰り返し使うことで物を大切にすることを忘れないようにしたいと思う。今度は自分自身で考え、選んだ箸で。